初回面会時における低出生体重児の父親の没入感情に関する検討

Ｉ病棟４階東

○下瀬茂美　松本まり子　田中佐由里　斎藤恵子

Ⅰ．はじめに

グリーンバーグは、生まれたばかりの赤ちゃんの健康状態に心配な点があれば、父親に没入感情（赤ちゃんに興味を持ち、没頭してしまうという気持ち）が生じるのを抑制することがある[1]と述べている。

父親は、児がＮＩＣＵに入院した場合、最初に児に面会し、医師から児の病状説明を受け、それを母親に伝える役割がある。また、父親の母親に対する精神的援助が、母親の児に対する積極的な関わりを促進すると考えられ、父親の役割は重要である。よって、父子関係の早期確立が、その後の親子関係確立の重要なポイントとなる。

これらのことより、ＮＩＣＵにおける父子関係確立に対するより良い援助を行うためには、まず初回面会時の父親の気持ちを知ることが必要であると考えた。そこで、当院で出生した低出生体重児の父親と、対照群として、正常新生児の父親に、初回面会時の新生児への没入感情についてアンケート調査を行い、結果を比較・検討した。その結果、ＮＩＣＵにおける父子関係確立に対するよりよい援助を行うための示唆を得たので報告する。

Ⅱ．研究方法

1. アンケート調査期間：1996年12月３日～1996年12月20日

2. 対象：1996年１月１日～1996年11月13日までに当院で出生した児の父親126 名。そのうち低出生体重児の父親が48名（以下低出生群とする。先天異常、死亡例を除く）と、正常新生児の父親が78名（以下正常群とする）である。

3. 調査方法：退院した児の父親へ、アンケート用紙を直接郵送した。アンケート調査内容は、下田あい子らの作成した父親意識調査用紙より22項目を使用した。記載方法は、父親が初回面会時の気持ちを振り返って記載する。

4. 分析方法：アンケート調査22項目に対する父親の評定を５段階尺度とし、１～５点のいずれかに得点化し、各項目を低出生群と正常群の２群間で平均値の差の検定（ｔ検定）を行い分析した。

Ⅲ．結果（表１）

回収率は73％で、有効回答は低出生群が31名、正常群が49名の計80名で有効回答率は87％であった。

アンケート内容22項目のうち、②「妻に感謝している」、④「赤ちゃんに触りたい。抱きしめたい」、⑪「気分がうきうきする」の項目で有意差（$p<0.05$）が認められ、正常群より低出生群が低かった。

また、⑥「赤ちゃんの今後の発育に関して不安に思う」、⑦「赤ちゃんの現在の状態を不

安に思う」、⑭「赤ちゃんを痛々しいと思う」、⑳「赤ちゃんに対する現在の治療を不安に思う」の項目で有意差（$p<0.05$）が認められ、正常群より低出生群が高かった。

その他の項目では両群間において、有意差は認められなかった。

Ⅳ．考察

1．調査結果から、有意差の認められた項目について

まず、④「赤ちゃんに触りたい。抱きしめたい」という項目は、正常群より低出生群が低かった。これより、没入感情のひとつである新生児に対する触覚的認識（触れたり抱くことは非常に楽しいので抱きたいという認識）が抑制されていることがわかった。その要因として、低出生体重児は、身体が小さく、保育器に収容されている、モニターを装着している、点滴をしている、人工呼吸器を装着している場合があるという点で、児が異質な環境下におかれていることがあげられる。また、正常新生児に比べ低出生体重児は、目を開いたり、啼泣したり、吸啜反射や身体的な動きが少ないといったことが考えられる。さらに、低出生群は、上記の要因が父親の視覚に影響し、児の現在の状態・治療・今後の発育に関して不安に思っていることがわかった。これは、質問項目の⑥「赤ちゃんの今後の発育に関して不安に思う」、⑦「赤ちゃんの現在の状態を不安に思う」、⑭「赤ちゃんを痛々しいと思う」、⑳「赤ちゃんに対する現在の治療を不安に思う」の項目で、低出生群が高かったという結果より明らかである。児のおかれている環境や、児の反応が、父親の児に対する不安要因となり、触覚的認識を低下させ、没入感情を抑制する因子となっていることが考えられる。

次に、⑪「気分がうきうきする」という項目で有意差が認められ、正常群より、低出生群が低かった。この項目は、没入感情のひとつである、気分が高揚し、舞い上がったような気持ちを示している。また、グリーンバーグは、多くの父親にとって、このハイな気分は、一部はわが子が健康なこと、しかもそれ以上に、美しく、完全な子供だったという安堵感と関係しているように思われる[2)]と述べている。このことから、児が小さく生まれたことや、出生直後より治療が必要な子供であったという、父親の望んでいた子供像とのギャップにより、「気分がうきうきする」という没入感情のひとつである、気分の高揚が抑制されていると考えられる。

次に、②「妻に感謝している」の項目で、正常群より低出生群が低かった。多くの父親は、妻である母親に対し、健康な児を生むことを望んでいる。しかし、その希望が実現しなかったため、妻に対する感謝の気持ちが低く、妻へのいたわりや支援が、円滑にいかないこともあると考えられる。

2．有意差のなかったその他の項目について

⑨「父親としての実感がわいた」、⑫「父親としての責任を感じる」、⑯「仕事への意欲がわいた」の項目は、両群間で有意差はなかった。このことは、低出生群は、正常群と同様に父親としての自覚や責任感があり、父親としての役割を果たそうとしていることが考えられる。これは、母親と同様に、父親としての実感は、妊娠期から育児期の過程で形成されていくため、児の出生体重や、治療の有無は、父親としての自覚や役割意識には関与しないことが考えられる。

３．没入感情が促進されるためのＮＩＣＵにおける面会時の対応について

ＮＩＣＵという環境は、救急治療の場であり、モニターのアラーム音や、医療スタッフの動きなどが騒然としている。そのため、父親は、面会時間に心を落ち着けて、児に集中する時間がもてない。また、児がこのような環境の中におかれているため、父親に児の状態がよりいっそう重篤である印象を与えてしまう。それが、父親の不安を高め、没入感情抑制因子になることが考えられる。そのため、看護婦は、父親が児に集中できる環境を整えることが必要である。

当院ＮＩＣＵにおいては、面会時には、父親が児と同じ目線の高さで面会できるように、保育器の傍に椅子を用意し、児と父親の距離感を縮めたり、保育器との隔たり感を軽減できるようにしている。また、モニター等のアラーム音のボリュームを下げ、できるだけ父親が児に集中できるように配慮している。

また、母親と同様に、父親の児への早期接触が父子関係の確立に重要であるといわれている。当院ＮＩＣＵでは、初回面会時より、児に触れることを積極的に促している。面会の積み重ねで、没入感情が促進されると思われるので、定期的な面会をすすめることが大切である。看護婦は、初回面会時、父親に付き添い、父親に対して恐怖や不安を軽減できるような態度で接するとともに、できるだけ面会回数を増やし、父親と児との早期接触ができるように努め、父親の没入感情が促進されるように援助することが重要であると考える。

また、当院ＮＩＣＵでは、受け持ち看護婦が、児の体重やミルク量、日頃の様子などを記入した両親との交換日記である「すくすく日記」を作成し、母親と共に父親の参加を求めている。

今後、本研究で得られた結果を再認識し、現在行っている援助を続行していくとともに、さらにきめ細やかな父親への精神的な援助を行う必要がある。

Ｖ．結論

１．低出生体重児の父親は、正常新生児の父親と比較して、児に対して不安と消極的な感情をいだいており、新生児への没入感情である、触覚的認識と気分の高揚という点で抑制されている。

２．低出生体重児の父親は、正常新生児の父親と同様に、児に対して父親としての自覚や責任感があり、役割意識をもっている。

引用文献

１）マーチン・グリーンバーグ：父親の誕生，竹内徹訳，メディカ出版，p.52，1994.

２）マーチン・グリーンバーグ，竹内徹訳：エングロスメント（没入感情：のめり込み）－父親に与える新生児のインパクト－，Perinatal Care，13（11），p.29，1994.

参考文献

１）川端百合子他：当ＮＩＣＵに入院となった児の父親の心理学的検討，日本新生児看護研究会誌，3，p.16－21，1996.

２）下田あい子他：当ＮＩＣＵに入院となった児の父親の初回面会時における不安の分析，Neonatal Care，9(11)，p.84－90，1996.

3）竹内徹他：座談会「父親の役割を考える」－「父親の誕生」（マーチン・グリーンバーグ著）をめぐって－Perinatal　Care 13(11), p.11-24, 1994.
4）田辺圭子他：極少未熟児を持つ父親へのアンケート調査，助産婦雑誌，47(1), p65-69, 1993.
5）三宅和夫：乳幼児の人格形成と家族関係，財団法人放送大学教育振興会，21, 1993.
6）宮中文子他：父親の育児参加と意識との関連，母性衛生，34 (1), p57-63, 1993.

表1　父親意識調査項目と結果及び平均値

父親意識調査項目	とても思う(5点)	まれに思う(4点)	どちらとも言えない(3点)	ほとんど思わない(2点)	まったく思わない(1点)	平均値 正常群(n=49)	平均値 低出生群(n=31)
①赤ちゃんを見ていると心が安らぐ。	○×					4.571	4.290
②妻に感謝している。	○×					4.837	4.516＊
③赤ちゃんに元気になってほしい。頑張ってほしい。	×○					4.878	4.968
④赤ちゃんにさわりたい。抱きしめたい。	○×					4.367	3.935＊
⑤妻に早く会わせたい。抱かせたい。	○×					4.510	4.355
⑥赤ちゃんの今後の発育に関して不安に思う。		×	○			2.980	3.839＊
⑦赤ちゃんの現在の状態を不安に思う。		×		○		2.286	3.581＊
⑧赤ちゃんの誕生に感動している。	⊗					4.633	4.613
⑨父親としての実感がわいた。	○×					4.224	3.935
⑩自分または妻に似ていると思う。	○×					4.245	3.903
⑪気分がうきうきする。	○	×				4.204	3.548＊
⑫父親としての責任を感じる。	○×					4.612	4.387
⑬入院または出生の手続きをするために時間をつくるのが負担である。				×○		2.163	2.323
⑭赤ちゃんを痛々しいと思う。		×		○		2.122	3.452＊
⑮赤ちゃんに魅力を感じる。	○×					4.265	4.000
⑯仕事への意欲がわいた。	○×					3.918	3.613
⑰赤ちゃんと離れたくない。	⊗					3.755	3.774
⑱赤ちゃんの様子を妻にありのまま伝えたい。	×○					3.959	4.323
⑲赤ちゃんに申し訳ないと思う。				×	○	1.571	1.968
⑳赤ちゃんに対する現在の治療を不安に思う。			×	○		1.796	2.645＊
㉑妻の容態が心配である。		×○				3.306	3.355
㉒家事・育児に協力したい。	○×					4.204	4.161

○: 正常群　×: 低出生群　　＊: $p<0.05$